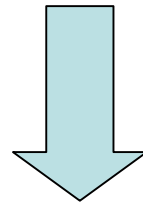


**男女共同参画委员会はどこへ行こうとしているのか？
Where are we going?**

**第39回日本腎臓学会西部学術大会
男女共同参画委员会特別企画
2009年10月16日 和歌山県民文化会館
国立病院機構福岡東医療センター片渕 律子**

男女共同参画委员会はどこへ行こうとしているのか？



今、男女共同参画委员会はどこにいるのか？

男女共同参画委員会(企画委員会の下部組織)設立

2006年10月23日 委員会委員の陣容決定、企画委員長、理事長承認
設立時委員メンバー

委員長: **武曾恵理**(田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科)

副委員長: **内田俊也**(帝京大学医学部内科)

委員: **内田啓子**(東京女子医科大学第四内科)

片渕律子(国立病院機構福岡東医療センター腎臓内科)

衣笠えり子(昭和大学横浜市北部病院)

竹本文美(虎の門病院腎センター)

斎藤知栄(筑波大学腎臓内科)

水入苑生(東邦大学医学部医学科腎臓学)

森 典子(静岡県立総合病院腎臓内科)

安田 隆(聖マリアンナ医科大学腎臓病センター)

幹事: **和田隆志**(金沢大学医学部血液浄化療法部)

アドバイザー: **原 茂子**(虎ノ門病院健診センター: JSWN会長)

* 西部のメンバーが少なかったことと、若返りを狙って
名古屋第二赤十字病院腎臓内科の**武田朝美**先生と
松下会あけぼのクリニックの**田中元子**先生があらたに任命。



和田隆志: 金沢大学血液情報統御学教授
腎臓内科長
「笑顔で楽しく、そしてよい仕事ができる
ような基盤形成に少しでもお役に
立てればと考えております。」



森典子: 静岡県立総合病院 腎センター長
「長年地方の公立病院で腎臓内科に専念して
今日に至っています。3人の男児に恵まれ、
曲がりなりにも育っています。最近では若手
腎臓内科医にも恵まれ、時間を作って
ダイビングに挑戦しています。」



内田啓子: 東京女子医大腎臓内科准教授
「糸球体の構造美とネフローゼ症候群の不思議
に魅せられ腎臓内科を専攻。臨床も研究も教育
も家族も趣味も毎日綱渡りのように暮らしてい
ますが、このぎりぎり感が結構性に合っているか
も?と思うこの頃です。」



武田朝美: 名古屋第二赤十字病院第二腎臓内科部長
「これまで幸せなことに男女区別のない状況で
腎臓内科医として仕事を続けてきました。
次世代への引継ぎを真剣に考え始めなければ
いけない年頃になりつつあります。」



竹本文美: 虎の門病院腎センター内科医長
「やる気はあるが機会、環境にめぐまれない
若い先生たちへ。昔私がそうでした。何でも
相談にのりますのでお気軽に声をかけて
くださいね。」



委員長 武曾恵理: 財)田附興風会医学研究所
北野病院腎臓内科部長
NPO法人: 「女性医師のキャリア形成・維持・向上を目
指す会(イージェイネット: ejnet)」理事
趣味: ワイン(最近は焼酎)と読書
“「説得」より「納得」の、医療、教育、研究、経営を!”



副委員長 内田俊也: 帝京大学医学部内科教授
趣味: 美術鑑賞とデジタルカメラ、少し中国語
「医療受難時代を迎えても、生きがいを感じられる
環境づくりが自他ともに大切だと思います。
医師になってよかったという実感を永久のものに!」



斎藤知栄: 筑波大学大学院人間総合科学研究科
臨床医学系腎臓内科講師
「周りには相談できる先輩や仲間が沢山います。
声をかけあって輪をひろげましょう。」



片渕律子: 国立病院機構福岡東医療センター
内科部長
あだ名“ウミガメ” そのココロは“産みっぱなし”
趣味: 乗馬(落馬歴あり)
「女性として母親として医師として輝くことができ
る欲張り人生を謳歌しましょう!」



田中元子: 松下会あけぼのクリニック副院長
「サッカー少年の母。
主人は消化器内科医です。
私はクリニック勤務医の立場から、
腎臓専門医・透析専門医として
臨床的なリサーチクエストを
発信していきたいと思っています。
若手医師のモチベーション向上
のために努力したいと思います。」



衣笠えり子: 昭和大学横浜市北部病院
内科教授
趣味: 読書(とくにミステリー)、旅行、
ゴロゴロしていること。
「医師を志したときの想いを忘れずに!」



安田 隆: 聖マリアンナ医科大学
腎臓・高血圧内科准教授
趣味: 家庭菜園と読書
「医療をよくするには患者や家族ばかり
ではなく、医療関係者も幸せであるよう
に、皆で力を合わせてよい方向へ向かっ
ていきたいと思っています。」

日本腎臓学会男女共同参画委員会

Mission（使命）

より多くの医師が、個々の仕事、生活の多様性を尊重しつつ、腎臓学への取り組みを通じて男女共同で支える豊かな医療を推進する

到達目標 (Goal)

1. 女性医師の啓発、広報を行い専門医志望者の増加をうながす
2. リーダーとなる医師を性差なく押上げる
3. キャリアを途絶えさせないシステムの構築
4. 参加しやすい学会運営
5. 孤立を防ぎ、キャリア継続をサポート

Goal (到達目標)とStrategy (方策)

1. 女性医師の啓発、広報を行い専門医志望者の増加をうながす

- ・初期研修での腎臓学の啓発と女子医学生への教育(実行中)
→“臨床研修医のための腎臓セミナー”への積極的参加。
- ・HPでの、委員会広報(実行中)
- ・総会でのシンポジウム開催と展示ブースの開設(実行中)
- ・国内外の学会との連携

日本透析医学会(男女共同参画委員会、復帰プロジェクトへの参画の要請)

日本健診学会、日本総合診療学会、日本内科学会

ASNのSociety of woman nephrologists

Chinese society of nephrology のwoman nephrologists

2008年日本腎臓学会総会 : 男女共同参画委員会ブース の初回の試み





2008年日本腎臓学会西部学術大会男女共同参画委員会ブース



Goal（到達目標）とStrategy（方策）

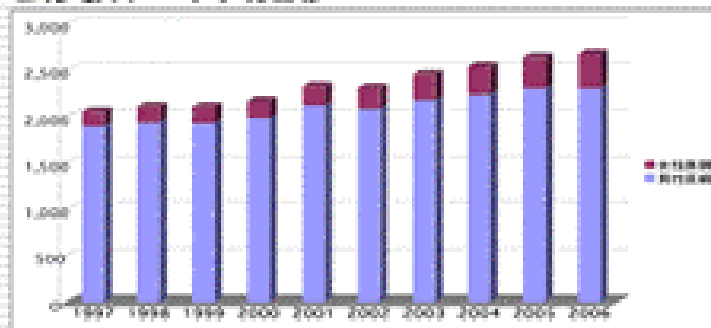
2. リーダーとなる医師を性差なく押上げる

各部門のリーダーとなる医師を性差なく押上げ、
男女共同して腎臓学の医療、研究、教育の充実をはかる

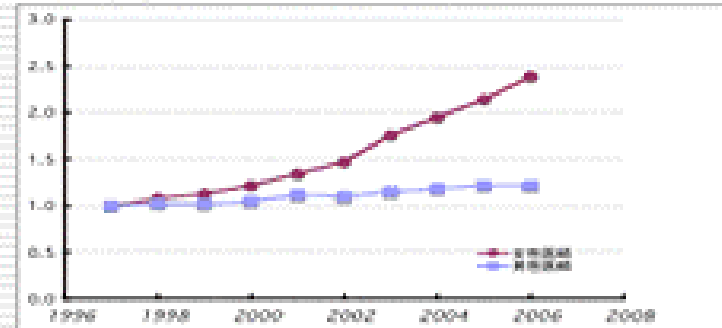
- ・人材発掘と登用
- ・役員内の男女均衡アクションによるサポート

日本腎臓学会の各種会員数と男女比

* 会員数の年次推移



* 会員数の男女別増加率



* 会員種別の男女比

	総数(人)	男性(%)	女性(%)
会員	8168	81.2	18.8
専門医 (取得率)	2666	86.1 (34.8)	13.9 (24.1)
学術評議委員	400	93.4	6.6
法人評議員	198	97.2	2.8
法人理事	23	100	0

第50回日本腎臓学会学術総体会
特別企画 男女共同参画委員会設立シンポジウム



2006年末アンケート調査より集計(東京女子医大:内田啓子委員作成)

2008年度 水入苑生先生 理事に就任
各委員会に女性会員が参画

Goal（到達目標）とStrategy（方策）

3. キャリアを途絶えさせないシステムの構築

あらゆる生活の局面で、腎臓学の高い専門性を維持して
キャリアを途絶えさせないシステムを構築する

- ・育児中の常勤、非常勤医受け入れ施設の広報（アンケート実施）
- ・現場復帰プロジェクト：卒前、卒後研修委員会との連携（アンケート実施）
- ・認定医、専門医制度の改変（完了）
- ・日本透析医学会との連携

復帰支援プログラムに関する アンケート結果の概要

		アンケートへの回答 (%)		復帰支援プログラム (%)		作成予定 (%)		有り+作成予定
平成19年	あり	234	(55.5)	9	(3.8)	79	(35.1)	88 (37.6%)
	なし	188	(44.5)	225	(96.2)	146	(64.9)	
	総数	422	(100)	234	(100)	225	(100)	
平成20年	あり	254	(56.8)	22	(8.7)	71	(30.6)	93 (36.6%)
	なし	193	(43.2)	232	(91.3)	161	(69.4)	
	総数	447	(100)	254	(100)	232	(100)	

- 腎臓学会教育関連施設へ2年連続でアンケート調査を行った
- 両年度とも50数%の回答率であった
- 復帰支援プログラムを有する施設は1年間で微増した
- しかし、両年度で有する施設+作成予定施設の割合には変化がなかった
- プログラムを有する施設も現在進行形で復帰支援を進めている様子が伺えた
- 復帰支援プログラムの普及にはさらなる工夫が必要と思われた

腎臓専門医制度規定改訂

常勤医でなくても、所定の要項を満たせば
受験資格取得可に変更

: 週4日以上勤務していることを基準とし、

週3日の勤務は3/4、

週2日の勤務は1/2として計算。

合計3年以上の臨床経験の証明書があれば
受験資格取得可。

2007年5月の理事会で承認

Goal（到達目標）とStrategy（方策）

4. 参加しやすい学会運営

職場環境、家庭環境に応じた参加しやすい学会運営を目指す

- ・すべての学会において託児所設置を常態化（実行中）

2007年5月の理事会で承認

Goal（到達目標）とStrategy（方策）

5. 孤立を防ぎ、キャリア継続をサポート

成長途上の医師が腎臓学と取り組む上での問題に直面した際、
孤立を防ぎキャリア継続と向上への意欲をサポート

- ・すべての学会での相談窓口の開設（実行中）
実際の相談件数は少ない。

2007年5月の理事会で承認

日本腎臓学会男女共同参画委員会提供

男女共同参画 展示ブース・相談コーナー

日本腎臓学会男女共同参画委員会では第39回日本腎臓学会西部学術大会において、委員による展示ブース・相談コーナーを設けています。

ご自分の仕事や家庭における問題や悩み、今後の進路や腎臓医としてのキャリア形成での悩み・迷い・苦勞、上司としての部下についての相談、など、男女共同参画に関してのご相談がありましたら、是非ご利用ください。相談された方のプライバシーは厳守いたします。もちろん無料です。

開催日時:2009年10月16日(金)17日(土) 学会開催期間中

場所:第2会場 小ホール前 ホワイエ

相談担当者:男女共同参画委員会委員もしくは準委員

対象は日本腎臓学会会員および学術総会参加の未入会医師ですが、医学生や研修医からのご相談にも応じます。

個別相談にも応じます。複数の方がお揃いで相談コーナーをご利用いただくことも可能です。また意見交換の場としてもご利用ください。学会総合受付または委員会展示ブースに相談コーナー受付窓口を設けますので、個別相談については空いている時間帯をご予約ください。個別相談は別室を用意します。

展示ブース・相談コーナーには委員が常駐しますので、気軽に立ち寄りいただき、お声をかけてください。

日本腎臓学会男女共同参画委員会
武曾恵理・委員一同

今、男女共同参画委員会はどこにいるのか？

1. 女性医師への啓発、広報を行ない専門医の増加を促す。
 - ・初期研修での腎臓学の啓発と女子医学生への教育(実行中)
 - ・HPでの、委員会広報(実行中)
 - ・総会でのシンポジウム開催と展示ブースの開設(実行中)
 - ・国内外の学会との連携
 2. リーダーとなる医師を性差なく押上げる。
 - ・人材発掘と登用
 - ・役員内の男女均衡アクションによるサポート
 3. キャリアを途絶えさせないシステムの構築
 - ・育児中の常勤、非常勤医受け入れ施設の広報(アンケート実施)
 - ・現場復帰プロジェクト(卒前、卒後研修委員会と連携)
 - ・認定医、専門医制度の改変(完了)
 - ・日本透析医学会との連携
 4. 参加しやすい学会運営
 - ・託児所設置を常態化(実行中)
 5. 孤立を防ぎ、キャリア継続をサポート
 - ・相談窓口(実行中)
- * 緑字はGoalに到達していない部分。

日本腎臓学会男女共同参画委員会活動：問題点

1. 相談コーナーや展示ブースへの若い医師の訪問が少ない。

→若い医師の意見を反映していない可能性がある。

2. 特別企画が学術プログラムと重なっている

→学術活動に参加できない。

* 本学術大会では会長のご理解により他の学術プログラムと極力重ならない時間帯で特別企画を組んでいただいたことに心より感謝します。

男女共同参画委員会はどこへ行こうとしているのか？

我々が目指しているのは、
明日の腎臓学を担う医師の育成、
男女が等しくキャリアを積むことができる環境をつくること、
ひいては当委員会が不要となること。
しかし男女共同参画実現にむけて
当委員会の役割は未だ大きいことを痛感している。

男女共同参画委員会はどこへ向かえばいいのか？

今後の課題

- ・特別企画のあり方の検討：時間帯、内容など
- ・次世代のワーキングメンバーを募集して
若い医師の生の声を拾い上げる。
- ・HPの活用の工夫：復帰プログラムを有する施設の広報

発表後記

今回のパネルでの私の発表は、委員会を代表するものではなく、私の個人的な意見です。

我々は委員会発足以来、色々なことに全力で取り組み、突っ走ってきた感があります。

そしてふと立ち止まって、我々はこのままでいいのか？と自問自答するようになりました。

“男女共同参画委員会はどこへ行こうとしているのか？”というタイトルは本当は、“何処へ向かえば良いのか？だれか教えてください！”という叫びに近い気持ちを表したものでした。

ただ、他のパネリストの皆さまのご発表を聞いて、新たな感動を覚え、そして、我々の活動は必要とされているのだ、と確信することができました。今回スライドを作成し、活動の整理をしてみると遣り残していることも沢山ありました。

この委員会が必要とされなくなる時代の到来を願って、もう少し頑張ってみようと思います。ただ、中にいると見えなくなることも沢山あります。この委員会に対するご意見、ご感想、アドバイスなどがありましたら、忌憚なきご意見を賜りますよう、どうぞ宜しくお願いします。